

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2021(v1.2)

1 建物概要

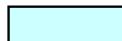
建物名称	(仮称)合同会社Y&Pホールディ	BEE	0.5	BEEランク	B-	★★
------	------------------	-----	-----	--------	----	----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [*] /満点	取組み度	評価	
1 循環型社会への貢献	2.5 /5	 	がんばろう	
2 地球温暖化対策の推進	2.0 /5	 	がんばろう	
3 豊かな自然環境の確保	1.6 /5	 	がんばろう	
4 高齢社会への対応	2.0 /5	 	がんばろう	
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル： CASBEE-建築(新築) 2021年版	使用CASBEE評価ソフト： CASBEE-BD_NC_2021(v.1.2)
1 循環型社会への貢献	スコア平均 2.5
リサイクルに関する配慮 LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	長寿命化に関する配慮 スコア 2.4 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 スコア 3 Q2/ 3 対応性・更新性 スコア 2.2
特になし。	一般的な耐用年数のコンクリートを採用しています。
2 地球温暖化対策の推進	スコア平均 2.0
省エネ・省資源に関する配慮 LR3/ 1 地球温暖化への配慮	節水に関する配慮 スコア 3 LR2/ 1.1 節水 スコア 1
ルームエアコンにODP=0の製品を使用しています	特になし。
3 豊かな自然環境の確保	スコア平均 1.7
生態系保全に関する配慮 Q3/ 1 生物環境の保全と創出	緑化に関する配慮 スコア 1 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 スコア 2 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善 スコア 2
特になし。	特になし。
4 高齢社会への対応	スコア平均 2.0
バリアフリーに関する配慮 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	主な指標 建物の外皮性能(BPI評価) 非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級 4 建物の一次エネルギー消費量(BEI評価) 非住宅:BEIm値、住宅: - 0.96 外構緑化指數 0 % 建物緑化指數 0 %
特になし。	



:入力欄



:CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.2)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)合同会社Y&Pホールディングス	階数	地上12F
建設地	福岡県北九州市小倉北区浅野二丁目	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	130人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年1月 予定	評価の実施日	2024年8月19日
敷地面積	669 m ²	作成者	熊澤 茂樹
建築面積	288 m ²	確認日	2024年8月●日
延床面積	3,176 m ²	確認者	○○○

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 0.5 ★★☆☆☆			
S: ★★★★★ A: ★★★★☆ B+: ★★★★ B: ★★★ C: ☆	3.0: S 1.5: A 1.0: B+ 0.5: B 0.0: C	30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆	Q2 サービス性能 Q3 室外環境(敷地内) Q1 室内環境 LR1 エネルギー LR3 敷地外環境 LR2 資源・マテリアル
100 G 環境負荷 L	3.0 1.5 BEE=1.0 BEE=1.0 S A B+ B C 31 61	30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆	Q2 サービス性能 Q3 室外環境(敷地内) Q1 室内環境 LR1 エネルギー LR3 敷地外環境 LR2 資源・マテリアル
このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO ₂ 排出量の目安で示したものです	標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+	100% 98% 98% 98% 100% 99% 98% 92% (kg-CO ₂ /年·m ²)	

2-4 中項目の評価(バーチャート)	
Q 環境品質	Q のスコア= 2.2
Q1 室内環境	Q1 のスコア= 2.8
Q2 サービス性能	Q2 のスコア= 2.5
Q3 室外環境(敷地内)	Q3 のスコア= 1.1
LR 環境負荷低減性	LR のスコア= 2.5
LR1 エネルギー	LR1 のスコア= 2.7
LR2 資源・マテリアル	LR2 のスコア= 2.4
LR3 敷地外環境	LR3 のスコア= 2.5

3 設計上の配慮事項		
整合	BEIが0.95以下となるように設計し、省エネルギー化を図っています	
その他	特になし。	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
熱橋部分に適宜断熱材補強を入れています。	階高2.6m以上を確保しています。	特になし。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
建具にLow-E複層ガラスを採用して、省エネ化を図っています。	ルームエアコンにODP=0の製品を使用しています。	適切な棟間距離を確保できる配置にしています。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
(仮称)合同会社Y&Pホールディングス様マンションⅡ新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.2)

スコアシート 実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
配慮項目	実施設計段階						
Q 建築物の環境品質							2.2
Q1 室内環境				0.40		-	2.8
1 音環境			3.0	0.15	3.0	1.00	3.0
1.1 室内騒音レベル			-	-	3.0	0.50	
1.2 遮音			3.0	1.00	3.0	0.50	
1 開口部遮音性能			3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能			-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音			-	-	1.0	-	
2 溫熱環境			1.8	0.35	3.1	1.00	2.9
2.1 室温制御			2.2	0.71	3.3	0.50	
1 室温			3.0	0.63	3.0	0.63	
2 外皮性能		等級4相当を確保できる外皮、設備を導入しています。	1.0	0.38	4.0	0.38	
3 ゾーン別制御性			-	-	-	-	
2.2 湿度制御			1.0	0.29	3.0	0.20	
2.3 空調方式			-	-	3.0	0.30	
3 光・視環境			2.2	0.25	2.8	1.00	2.7
3.1 昼光利用			3.0	0.30	2.5	0.30	
1 昼光率			3.0	0.60	2.0	0.50	
2 方位別開口			-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備			3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策			2.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光制御			2.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度			3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御			1.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境			2.6	0.25	2.7	1.00	2.7
4.1 発生源対策			3.0	0.60	3.0	0.63	
1 化学汚染物質			3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気			2.0	0.40	2.3	0.38	
1 換気量			3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能			3.0	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮			1.0	0.50	1.0	0.33	
4.3 運用管理			-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視			-	-	-	-	
2 噴煙の制御			-	-	-	-	
Q2 サービス性能			-	0.30	-	-	2.5
1 機能性			2.1	0.40	2.6	1.00	2.5
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性			-	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応			3.0	1.00	3.0	1.00	
3 パリアフリー計画			1.0	0.30	2.0	0.40	
1.2 心理性・快適性			1.0	0.30	3.0	0.50	
1 広さ感・景観			-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース			-	-	-	-	
3 内装計画			1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理			2.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計			2.0	0.50	2.0	-	
2 維持管理用機能の確保			2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性			2.6	0.30	-	-	2.6
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			3.0	0.30	-	-	
1 転体材料の耐用年数			3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性			1.4	0.20	-	-	
1 空調・換気設備			3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備			1.0	0.20	-	-	
3 電気設備			1.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法			1.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備			1.0	0.20	-	-	

		2.2	0.30	2.5	1.00	2.4
3 対応性・更新性		-	-	2.0	0.50	
3.1 空間のゆとり		3.0	-	2.0	0.60	
1 階高のゆとり	-	3.0	-	2.0	0.40	
2 空間の形状・自由さ	-	-	-	3.0	0.50	
3.2 荷重のゆとり		-	-	-	-	
3.3 設備の更新性		2.2	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性	-	2.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性	-	2.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性	-	1.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	1.1
1 生物環境の保全と創出	-	1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	-	1.0	0.40	-	-	1.0
3 地域性・アメニティへの配慮		1.5	0.30	-	-	1.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	1.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	-	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	2.5
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	2.7
1 建物外皮の熱負荷抑制	-	1.0	0.20	-	-	1.0
2 自然エネルギー利用	-	2.0	0.10	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化	高効率な設備を採用しています。	3.4	0.50	-	-	3.4
4 効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価		-	-	-	-	
4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	
集合住宅の評価		3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	2.4
1 水資源保護		2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水	-	1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
2 雜排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		2.4	0.60	-	-	2.4
2.1 材料使用量の削減	-	2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-	3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		2.7	0.20	-	-	2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		2.6	0.70	-	-	
1 消火剤	-	2.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.33	-	-	
3 冷媒	-	3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	2.5
1 地球温暖化への配慮	-	3.0	0.33	-	-	3.0
2 地域環境への配慮		2.3	0.33	-	-	2.3
2.1 大気汚染防止	-	3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	-	2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	-	1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		2.1	0.33	-	-	2.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1 騒音	-	3.0	0.33	-	-	
2 振動	-	3.0	0.33	-	-	
3 悪臭	-	3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		1.6	0.40	-	-	
1 風害の抑制	-	1.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制	-	1.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		1.6	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	1.0	0.70	-	-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	1.0		-	-	-	-	-	O	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	3.0		-	-	-	-	O	-	O	-	O	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	1.0		-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雜排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 転体材料におけるリサイクル材の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	3.0		-	-	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0		-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標**Q1 室内環境**

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)	-	外壁	-	床	-
U値(W/m ² K)	窓システム	屋根	-	外壁	-	床	-

3.1.1 昼光率

昼光率	1.5%	自然換気有効開口面積率	3.3%
-----	------	-------------	------

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース	.0m ² /人	病床	.0m ² /床	シングル	.0m ² ツイン	.0m ²
コンセント容量	30.0 VA/m ²					

4.2.2 自然換気性能

天井高	2.35 m	リフレッシュスペース	0.5%	レストスペース	2.0%
想定耐用年数	20 年				
想定必要間隔	20 年				
想定必要間隔	0 年				
想定必要間隔	0 年				

3.1.1 階高のゆとり

階高	2.76 m	壁長さ比率	61.0%
床荷重	4000 N/m ²		

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数	0%	建物緑化指数	0%
空地率	57%	水平投影面積率	8%

3.2 敷地内温熱環境の向上

地表面対策面積率	0%	舗装面積率	57%
----------	----	-------	-----

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI _m	-	断熱等性能等級	等級1相当
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年m ²	採光を満たす教室数	0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%
		通風を満たす教室数	0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%

2 自然エネルギー利用

BEI/BEIm	非住宅	0.96	住宅	0.95	太陽光	.0kW	太陽熱等	.0kW	蓄電池	.0kW
----------	-----	------	----	------	-----	------	------	------	-----	------

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率	0.0%	特定調達品目	-	エコマーク商品	-	自治体指定の特定品目等	-
使用比率	0.0%						

2.4.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)
0	地球温暖化係数(GWP)

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)	675
---------------	--------------	-----

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	65% 隣棟間隔指標Rw 0.47
地表面対策面積率	0.0% 屋根対策面積率 0.0% 外壁対策面積率 0.0%
見付面積S _b	668m ² 卓越風向と直交する最大敷地幅W _s 28.965 m 基準高さH _b 34.98 m

緑地	m ² 水面	m ² 保水性対策面	m ² 高反射対策面	m ² 再帰性反射対策面	m ²
----	-------------------	-----------------------	-----------------------	-------------------------	----------------